

令和 6 年度 学校評価シート

学校名： 和歌山県立田辺中学校

校長名：西嶋 淳

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）

- ・「郷土から未来に発信できる人間の育成」をめざす中高一貫教育校
- ・確かな理数の学力、豊富な体験、幅広い人間性をもとに、未来の社会に貢献できる生徒

学校評価の公表方法

- ・保護者への学校アンケートを実施し、「学校だより」等で自己評価及び学校関係者評価の結果を知らせる。
- ・ホームページ等で公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）

番号	計画・取組			評価（3月24日現在）			
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗度	進捗状況	今後の改善方策
1	・ICT や地域教材等、多様な教育資源を効果的に活用した探究的な学習を取り入れながら、主体的・対話的で深い学びを実現する授業を創造し、学びを活用する力を向上させる。 ・補充学習や個別指導等を適切に行い、生徒一人一人の課題に対応する。	B	ICT や地域教材等、多様な教育資源を再発見・開拓しながら探究的な学習を充実させる。	探究的な学習の取組の実施状況と事後評価アンケート	B	全教員が研究主題を意識した授業を行い、探究的な学習の取組を充実した。	研究授業は毎回指導主事を招聘し、協議のテーマや方法を工夫することで意見交流が深まり、授業改善に生かすことができた。このことが教員全体の授業力向上や生徒の授業に対する肯定的評価につながっていると考えられる。今後はスタディサプリの更なる活用等、個別最適な学びの充実に努める。
			研究授業及び研究協議を計画的に実施し、教員全体の授業力向上に取り組む。	研究授業の実施状況と事後の協議内容 授業の肯定的評価 90%以上	A	研究授業を毎学期実施し、事後の協議を深め、授業改善を図った。授業の肯定的評価 97%以上達成。	
			学力補充が必要な生徒にはスタディサプリーを用いる等、効果的な個別指導を計画的に実施する。	長期休業中の補習実施状況 スタディサプリーを活用した学力の定着状況	B	夏季休業中の補習を計画的に実施。全校生徒スタディサプリー確認テスト平均初回正答率 83%達成。	
2	・「将来の自己実現の基盤を築く」という視点から各学年の体験活動を工夫し、心身ともに豊かでたくましい生徒の育成を図る。 ・将来の進路選択に結びつく取組を充実させ、自ら考え行動する態度の育成を図る。	B	主体的に課題を見つけ、より良い方法を選択して解決に取り組む学習活動を計画・実施する。	体験学習等の実施状況 生徒アンケートの結果	B	各学年において体験的な学習を重視した取組を実施した。生徒アンケートの肯定的評価 96%を達成。	今後も高校や地域との連携を図りながら様々な体験学習を充実させることで主体的に課題を見つけ、探究しようとする態度の育成に取り組む。また、単発的な体験にならないよう、学校の教育活動全体を通じたキャリア教育の充実を図る。
			生徒会活動等の活性化を図り、生徒の主体性を育む。	体育祭等のキャリアパスポートの内容	B	学校行事や生徒会活動の充実等により、生徒自身が成長を実感する等肯定的な記述が多く見られた。	
			高等学校や地域の教育資源との連携を重視してキャリア教育を充実させる。	生徒の感想文やキャリアパスポート等の内容	B	大学講座体験や職場体験等により、将来の進路選択について肯定的な記述が多く見られた。	
3	・生徒一人一人の個性を生かし、自己理解を深めていくとともに、自主性、協調性、責任感等、社会で必要とされる資質の育成を図る。 ・ものの見方や考え方を向上し、確かな人権意識を培うとともに、集団や社会の一員として、より良い生活を築こうとする実践的な生徒の育成を図る。	B	「特別の教科 道徳」を要として、心の教育を充実させ、規範意識や人権尊重の態度を育成する。	「特別の教科 道徳」の学習状況 ポートフォリオの内容	B	学年担当全員で担当した。生徒が自身を振り返り、次の行動に繋げようとする記述が多く見られた。	道徳の授業を要として、学年間で連携を図りながら心の教育の充実に取り組んだ。 問題行動等については、必要に応じて関係機関と連携しながら生徒指導主任を中心に組織的に対応するとともに、今後も外部講師による講演会や定期的な安全指導等により、安心・安全への意識の向上に努める。
			計画的な教育相談と実態調査により、いじめ・不登校等の未然防止と早期発見・解消を組織的に進める。	生徒アンケートの結果 いじめ解消率 100% 家庭や関係機関との連携	B	SC・SSW や関係機関、家庭と連携して状況の改善に努めた。認知したいじめ解消率は 100%を達成。	
			情報モラル講演会等、全校で学ぶ機会の設定と日々の学級での生活指導を継続する。	講演会の実施状況 生徒の生活態度の状況 保護者アンケートの結果	B	情報モラル講演会や人権学習講演会で啓発に努めた。保護者アンケートの肯定的評価 80%以上達成。	

学校関係者評価 (2月18日実施)

- ・国が推進する GIGA スクール構想の下、1人1台端末の利活用を更に進めて行く上で適切なネットワーク整備が不可欠であることから、校内ネットワークの充実を早急に図る必要がある。
- ・情報リテラシー講演会等の機会を今後も活用しながら、SNS やスマートフォンの利用について、継続して学習することが大切である。
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携を図り、生徒へのカウンセリングや保護者に対する助言や援助等の充実を今後も継続して欲しい。
- ・教員の働き方改革について、教員の負担軽減のためには地域人材の活用も図るなど、外部のパワーも必要であるとする。